

船舶事故調査報告書

平成24年8月23日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 横山 鐵 男（部会長）
 委員 庄 司 邦 昭
 委員 根 本 美 奈

事故種類	乗組員死亡
発生日時	不明（平成23年9月30日（金） 岡山県笠岡市小飛島北西500m沖で錨泊した時刻～10月1日（土） 01時36分ごろの間）
発生場所	小飛島北西500m沖付近 （概位 北緯34° 21.3′ 東経133° 30.7′）
事故調査の経過	平成23年10月3日、本事故の調査を担当する主管調査官（広島事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者としての船長からの意見聴取は、本人が本事故で死亡したため行わなかった。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	プレジャーボート 第一ふじ、5トン未満 270-788 広島、個人所有 10.66m (Lr) × 2.20m × 0.80m、FRP ディーゼル機関、110kW、昭和47年1月
乗組員等に関する情報	船長 男性 53歳 二級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 昭和51年5月14日 免許証交付日 平成20年10月8日 （平成26年9月21日まで有効）
死傷者等	死亡 1人（船長）
損傷	なし
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、平成23年9月30日13時00分ごろ、広島県福山市福山港の東部奥にある船溜まりを出発し、笠岡市の大飛島と小飛島の周辺海域に至り、機関を停止して錨を投じたのちに釣りを始めた。 船長の家族は、本船が、帰港予定の夕刻を過ぎても船溜まりに戻らないので、船長の知人に連絡を取って捜索を開始したが、夜遅くになっても本船を発見することができなかったことから、翌10月1日00時47分ごろ海上保安部に通報した。 本船は、通報を受けた巡視艇や巡視船などが捜索していたところ、01時36分ごろ、笠岡市所在の備中大浦港3号防波堤西灯台から真方位018° 0.7海里付近の小飛島北西約500m沖において、機関を停止し、無人で錨泊しているところを発見され、行方不明となっていた船長は、10月4日13時00分ごろ、同灯台から真方位314° 370m付近の大飛島東海岸に漂着しているところを発見された。 船長の死因は、溺死と検案された。

<p>気象・海象</p>	<p>9月30日～10月1日にかけて、福山市と笠岡市の12時00分ごろの気象と海象の状況は、次のとおりであった。</p> <p>9月30日 気象：天気 曇り、風向 西北西、風力 1～2、視界良好、日中は時々しゅう雨</p> <p>海象：海上 平穏</p> <p>10月1日 気象：天気 晴れ、風向 北東、風力 1～2、視界良好</p> <p>海象：海上 平穏</p> <p>なお、9月30日の午後、無人の本船が発見された海域では、小雨が降り、時折、強い風が吹く状況であった。</p>	
<p>その他の事項</p>	<p>船長は、通常、甲板上では救命胴衣を着用していたものの、発見されたときは救命胴衣を着用していなかった。</p> <p>救命胴衣は、靴と靴下などと共に船内に残っていた。</p> <p>本船は、無人で発見されたとき、機関の電源スイッチはオンであったが、主機は停止して冷機状態となっており、燃料油タンクには燃料油が約半分残っていた。</p> <p>船長の職業は、潜水士であり、両親と共に釣り具店も経営しており、健康で、かつ、半年毎に健康診断を受け、海にも船にも釣りにも気象及び海象のことにも熟知していた。</p>	
<p>分析</p>	<p>乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析</p>	<p>不明 不明 不明</p> <p>船長は、溺死した。</p> <p>本船は、9月30日13時00分ごろ福山港の東部奥にある船溜まりを出発し、小飛島北西500m沖付近で錨泊後、10月1日01時36分ごろ機関を停止して無人で錨泊しているところを発見されたことから、この間において、錨泊中に船長が落水したものと考えられるが、落水した状況を明らかにすることはできなかった。</p> <p>船長は、落水して溺水したものと考えられるが、溺水に至った状況を明らかにすることはできなかった。</p>
<p>原因</p>	<p>本事故は、本船が、小飛島北西沖で錨泊中、船長が落水したことにより発生したものと考えられる。</p>	
<p>参考</p>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小型船の甲板上では、救命胴衣を必ず着用すること。 	